

佐伯発、**粋**で元気な
企業と働く人々をご紹介します

イキな佐伯の ヒトと企業

Vol. 36

はやかわ みつき

早川 光樹さん

株式会社 蒲江創生協会 代表取締役
道の駅かまえ Buri Laboratory 駅長

ひだか やすゆき

日高 靖之さん

入社3年/道の駅かまえ Buri Laboratory
海鳴り亭 ホール担当

わたなべ ふみえ

渡辺 二三枝さん

入社4年/
道の駅かまえ Buri Laboratory 直売所

さいとう けいた

斉藤 慶太さん

入社1年/
高平キャンプ場運営管理



▲こちらから動画が
ご覧になれます。

今回は

若き代表のもと
地方創生、漁師町の活性化に挑む

「株式会社蒲江創生協会」

道の駅かまえ Buri Laboratory/高平キャンプ場

道の駅×キャンプ場 蒲江の魅力をもPR

23歳で道の駅駅長に

◎ 平成30年、道の駅かまへの指定管理者に応募し、運営を引き継ぎました。当時まだ23歳、神奈川県で生まれ育った私が蒲江の道の駅に興味を持ったのは、父の実家が佐伯で親しみがあつたことや海・魚食文化に魅了されたからです。大学時代、留学先で、現地の友人と和食店を訪れた際、刺身の美味しさに感動している友人を見て日本文化の価値を再認識し、そこに大きな可能性を感じました。しかし、日本では水産業を取巻く環境は厳しく、魚食も減っています。自分にできることは何かないかと考えていたときに、道の駅の公募を知りました。

蒲江をPRする方法を模索

◎ 一番大きく変えたのは、ブりに特化させた点です。実は佐伯は養殖ブリの生産量全国2位なんです。ほかの道の駅と差別化する意味でも、この強みを活かさない手はないと考えまし

た。「ラボラトリー」の名前の通り、今もブリの可能性を探り続けています。昨年、高平キャンプ場の指定管理を引受けてからは、道の駅と共同で佐伯の特産品を使ったキャンプ飯の開発などにも取り組んでいます。両方を運営している利点を活かして、これからも蒲江の魅力を発掘・創造・発信していきたいです。

誰もが主役になれる職場

◎ 私は高平を単なるキャンプ場で終わらせるつもりはありません。泊まる、景色を楽しむだけでなく、蒲江の魅力を知ってもらおう「ぎゅっかけ」にしたい。そのため、「宿泊+蒲江の体験・食」など新たなプランを考案中です。

◎ レストランのホール担当ですが、回転寿司で働いていた経験を活かし、週末は寿司を握っています。一人ひとりの能力を認め、サポートし、活躍できる環境を用意してくれる職場です。

◎ 販売・製造業務のほか、店内に飾るポップを制作しています。ポップによって売れ行きが変わるので、やりがいがあります。



株式会社 蒲江創生協会

佐伯市蒲江大字西野浦1637番地3 ☎050-5527-1818 <http://buri.fish>

設立年月日：平成31年1月 資本金：1,000万円 従業員数：17人

※1 蒲江でとれたサザエ、タイが入った炊き込みご飯の素